

平成 28 年 1 月 20 日

教職員各位

新潟大学産学地域連携推進機構
知的財産創成センター長
門脇 基二

JST 新技術説明会と発明創出時の考慮事項について。

1. JST 新技術説明会

JST と本学が共同で開催する新技術説明会 (<http://shingi.jst.go.jp/>) は、本学の研究成果の一つである「特許」の実用化や研究のさらなる加速を目的として、企業関係者に向けて研究者自らが直接プレゼンする新技術の説明会です。新潟大学では、これまでも、この「産と学の出会場の場」を利用し、共同研究プロジェクトの創出に結びつけてきました。平成 28 年度も引き続き、以下に記載しますように本会の実施に向けて準備を進めております。本会での発表をご希望の教員の皆様は、1 月末日までに、ワンストップカウンター（本ご案内末尾参照）に、お問い合わせください。

(1) 開催日：平成 28 年 6 月 28 日（火）

(2) 開催場所：東京都内（発表者の旅費は、当機構で負担いたします。）

※) 平成 27 年度は、JST 東京本部別館 1F ホール（東京・市ヶ谷）JST ホール

http://shingi.jst.go.jp/abst/2015/niigata/tech_property.html

(3) その他

新技術説明会でご発表いただくためには、発表当日までに、研究成果の内容に基づいて、特許出願を済ませておく必要があります。

参考) 本学単独の新技術説明会の他、国立六大学連携コンソーシアム共催（11 月 17 日開催予定）の新技術説明会等、大学見本市イノベーションジャパン等への出展等も予定しております。こちらにつきましても、お気軽にワンストップカウンターまで、お問い合わせください。

2. 発明創出時の考慮事項

新たな発明がなされた場合には、論文として公表するのみならず、特許等の知的財産として権利化しておくことは、さらなる研究活動を円滑にするための手段として有効です。特に、卒研発表、博士前後期修了発表を控えたこの時期において、出願すべきか否かのご相談をワンストップカウンターで受け付けております。なお、新たな発明等をな

された場合は、発明届出書に所定の事項を記載の上、各部局に提出をお願いします。

(1) 発明を権利化することのメリット

研究成果を知的財産として権利化することには、以下のようなメリットがあります。

①特許を活用して外部の競争的資金を獲得

JST の A-STEP 等の研究支援プログラムへの申請には、特許出願が必要不可欠となっており、近年の大型研究プロジェクトにおいては、多くの場合、特許出願の実績が評価に大きく影響します。

②知的財産を基に共同研究の実施

知的財産として権利化されていると技術的な優位性を確保できるため、企業では事業化のインセンティブが働きます。特許出願した研究成果については、JST 新技術説明会等の機会を通じて企業等へ研究成果をアピールし、共同プロジェクトに発展させる機会に結びつきます。

③知的財産を産業界に移転して活用

企業が研究成果を事業化することにより研究成果の普及が図られ、社会貢献につながります。また、知的財産の実施料収入益の 50%が研究者個人に配分されます。

(2) 学内での手続き

「発明届出書」に必要事項をご記入の上、所属部局に提出願います。「発明届出書」の提出後、学内で発明審査を行います。大学として特許出願すると決定した後、特許出願の手続きを行います。なお、学内での発明審査が行われる前に企業等とともに共同で特許出願または権利を企業等に譲り渡すようなことはないようお願いします。

(3) 学内ルール・様式等

職務発明規程（学内ルールを定めています）

<http://www.ircp.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2014/12/hatsumeikitei-h23.4.1.pdf>

発明届出書（こちらの提出をお願いいたします）

<http://www.ircp.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2014/12/hatumeitodokedesho1.docx>

<http://www.ircp.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2014/12/kenrijoutosho-motibungouisho1.docx>

知的財産の心得（参考情報です）

<http://www.ircp.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2015/02/0213.pdf>

【本件問合せ先】

産学地域連携推進機構 ワンストップカウンター

Tel. 025-262-7554 E-mail: onestop@adm.niigata-u.ac.jp